

ごみの種類

正しく分別して出しましょう。

可燃ごみ

清掃工場が燃やすごみです。生ごみ・紙くずのほか、プラスチックのおもちゃ、CD、かばん、ボール、靴なども可燃ごみの仲間。燃やすと約20分の1の量になります。



不燃ごみ

金属・ガラス・陶磁器の食器や電球、傘などは燃やさず処理します。不燃ごみ処理センターに運ばれ、一辺の長さ15センチ以下に砕きます。鉄とアルミニウムを回収します。



粗大ごみ

大きな家具や自転車、布団などは、有料で回収されます。粗大ごみ破砕処理施設で手作業で分別してから破砕。鉄を回収し、細かくなった可燃物をさらに燃やします。



資源

リサイクルできるものは、ごみではなく資源です。新聞・本・雑誌・カタログ・段ボール・牛乳パック・白色トレイ・ペットボトル・びん・缶などは、回収後に再資源化・再製品化されます。

東京二十三区清掃一部事務組合(清掃一組)の国際協力

23区にある清掃工場には海外から年間5,000人以上の人が視察に訪れています。東南アジアなど、経済成長に伴いごみが増えて、その処理に困っている国がたくさんあります。そういった国々に東京のごみ処理技術を伝え、一緒にごみ問題を解決してこうと、清掃一組の管理者を務める西川区長を筆頭に、国際協力に取り組んでいます。マレーシア・インドネシア・ベトナムといった東南アジアのほか、ロシアやトルコなどの国々との協力も行っています。

▲荒川区の資源回収の現場を知るため、マレーシアから見学にきました。町屋一・二丁目自町会での取り組みを写真に収めていました

▲ごみから発電する技術を学ぶために、トルコから視察団が東京にやってきました

身近なところから取り組んでいます!

荒川区の小・中学校では、ごみ減量やリサイクル、クリーン作戦への参加など、環境教育に取り組んでいます。

瑞光小学校では、町の環境美化に対する意識や地域の一員である自覚を高めるため、「地域清掃」を行っています。放課後の時間を使い、荒川総合スポーツセンター周辺や瑞光公園、学校周辺を2学年ごとで回っています。

みんなの取り組みが集まれば大きなものになります。



▲大きな袋を準備して、ごみを分別しながら入れていきます

▶みんなでごみを拾って、楽しく活動しています

ごみはどこに行くのかな



“ごみ”の行方を教えてもらったよ!

平成26年度の1年間に、区内で発生したごみを運んだ清掃車の数は約40,000台。大量のごみはどこへ行くのでしょうか。墨田区にある墨田清掃工場をジュニア記者が取材しました。



▲左から瑞光小4年の金子紗弥さん・渡邊結月さん・田岡陸くん・諸澄鑑くん



▲プラットホームには、荒川区や墨田区などから1日に約450台のごみ収集車がやってきます。集めてきたごみを大きな扉の向こう側にある、ごみバンカへ入れていきます

モニターやコンピューターがいっぱい

▲ごみ収集車は、プラットホームに入る前に、ごみ計量機でごみの重さを量ります。1台のごみ収集車に約1.5~2トンのごみが入っています

▲高さは約150メートル。縦笛をかたどった煙突は地域の目印になっています

知らなかったごみのことがよくわかったよ



本格的だね!

すみちゃん

▶ごみ収集が始まったのは、なんと江戸時代!ごみの歴史や今のごみ処理のこと、3Rの工夫などを真剣に学ぶジュニア記者

▼生ごみ・紙くずなどのごみが均一に燃えるように、ごみバンカのごみをクレーンでかき混ぜます



ごみバンカはすごく広いんだ



▶ダンボールで作られた実物大のごみクレーンの大きさにビックリ



怒ガラスがあったかったよ

▲焼却炉の熱さを、近くの窓ガラスで体感してビックリ。ごみを燃やす時に出る熱は、発電や温水プールなどに使われます

ごみについて楽しく学んだジュニア記者。みんなもごみについて話し合ってみよう。

ごみの収集・処理は知らないことばかり
清掃工場を訪れるのは初めてのジュニア記者。工場長の東海林幸雄さんが、分かりやすく説明してくれました。
毎日出る可燃ごみを燃やして灰にすることで、ごみの量を元の約20分の1に減らすことができます。また、灰を高温で溶かした後、冷やして、「スラグ」という砂に似た物質にするので、土木資材として再利用することができず。
不燃ごみ処理センターは

2か所、粗大ごみ破砕処理施設は1か所。これらの施設では、ごみの中から鉄やアルミニウムなどのリサイクルできる資源を分別し、ごみを一辺あたり15センチ以下に砕いて細かくします。できる限り量を減らした可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみは、最終的に東京港にある埋立処分場に運ばれて埋め立てられます。「燃えたごみは煙になると思って」と田岡くん。
最初に訪れたのは「プラットホーム」。ごみ収集車が集めたごみを「ごみバンカ」へ入れます。巨大な

ごみクレーンがごみをかき混ぜる様子を見て「すごい迫力」と金子さん。均一に混ぜたごみは24時間稼働の「焼却炉」へ。800度以上の高温で、ばい菌や臭いの発生を防ぎます。
こうしたごみ処理のシステムは「中央制御室」で完全に管理されています。

分場は今使っている場所が最後。このままでは、あと50年くらいは使われてしまいます。少しでも長く埋立処分場を使うために、ごみを減らす必要があります。その話を聞いて、「考えて捨てるのが大事」と諸澄くん。また、渡邊さんは「短い鉛筆にキヤップをつけて使っています」と、自分でできる取り組みを教えてくださいました。

公職選挙法が改正され、18歳から投票できるようになります。7月に第五中学校、9月に南千住第二・尾久八幡中学校、10月に第一・第三中学校で模擬選挙が実施されました。今回は南千住第二中学校の様子を紹介します。

本番さながらの討論会



“未来区”の区長を決める模擬選挙。立候補者からの熱い話に生徒は耳を傾け、質問を投げかけていました

白熱した議論になりました



候補者の考えを聞いて、それぞれどう感じたか、どんな課題があるかを意見交換

投票する人を決めて、いざ記名



本物と同じ材質の投票用紙で投票。表面がややツルツルで、開票しやすいように折ってもすぐ開きます

誰が一番票を集めるかな?



生徒全員の投票が終わるとすぐに開票。集計後、すぐに結果が知らされました

懐かしいあの日あの時

思い出写真館

No.27

改修前の下御隠殿橋



日暮里駅の北側に架かる跨線橋です。この橋は老朽化のため、平成4年に取り壊されました。今から約20年前の平成7年に新しく生まれ変わって開通。歩道にはバルコニーが設置され、JR在来線・新幹線・京成電車など、多くの電車を眺めることができます。



▼休みの日には、多くの鉄道ファンが集まるスポットでした